

都道府県事業実施状況報告書及び評価報告書

(愛媛県 令和2年度)

市町村名	事業実施主体名	対象作物・畜種等名又は卸売市場名	成果目標の具体的な内容	事業実施後の状況					成果目標の具体的な実績	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考		
				計画時(H29年)	1年後(H30年)	2年後(R1年)	3年後(R2年)	目標値(R2年)				達成率	交付金	都道府県費	市町村費					その他	
大洲市	愛媛たいき農業協同組合	土地利用型作物(稲・麦)	被災前に比べて農畜産物生産額を1%以上増加(平成29年度米麦販売実績87,716千円を、令和2年度88,595千円以上の101%に増加させる)	87,716千円	75,972千円 13.3%減	101,551千円 15.7%増	84,361千円 3.8%減	88,595千円 1.0%増	-381.6%	販売額が3,355千円減少し、目標達成率は-381.6%となった。 愛媛たいき農協における米麦の販売実績により検証 ①現状値 H29愛媛たいき農協米麦販売額 87,716千円 ②目標値 R2愛媛たいき農協米麦販売額 88,595千円 ③実績値 R2愛媛たいき農協米麦販売額 84,361千円 ④達成率: (③-①) ÷ (②-①) × 100 (%) -381.6%	乾燥調製施設(米麦) ・建物1棟 958.14㎡ ・乾燥調製プラント一式(乾燥・調製・穀殻設備等) 解体・撤去・廃棄費用 代行施行管理料	408,402,000	189,075,000	0	37,815,000	181,512,000	令和元年11月29日	施設復旧による生産者の生産意欲向上が図れたが、単価の安い飼料米生産の増加と、ウンカ被害による収量と品質の低下により販売金額が低下し、目標が達成できなかった。 気候変動に対応した品種構成の見直し、早期の病害虫対策、高付加価値販売など、生産・指導・販売の各部門の連携を強化し、農家所得向上につながる取り組みを実施する。	米麦の販売量はH29年よりも増加しているが、高温障害やウンカ被害の影響等により単価が下落し販売金額が目標達成できなかった。 今後は、夏季の高温障害を受けにくく、食味が良い品種への転換推進と、ウンカ防除の徹底を図り、引き続き目標達成に向け指導を行う。		
大洲市	愛媛たいき農業協同組合	地域特産物(薬用シソ、ミシマサイコ、薬用ハッカ、山椒(実))	被災前に比べて農畜産物生産額を1%以上増加(平成29年度愛媛たいき農協薬用作物販売額10,427千円を、令和2年度23,154千円以上の122.0%に増加させる)	10,427千円	13,822千円 32.5%増	16,642千円 59.6%増	18,100千円 73.5%増	23,154千円 122.0%増	60.2%	販売額が7,673千円増加し、目標達成率は60.2%となった。 愛媛たいき農協における薬用作物の販売実績により検証 ①現状値 H29愛媛たいき農協薬用作物販売額 10,427千円 ②目標値 R2愛媛たいき農協薬用作物販売額 23,154千円 ③実績値 R2愛媛たいき農協薬用作物販売額 18,100千円 ④達成率 (③-①) ÷ (②-①) × 100 (%) 60.2%	集出荷貯蔵施設(地域特産物) 建物1棟 434.05㎡ 薬草乾燥プラント一式(5.9×8.2×2.8m 2基) 解体・撤去・廃棄費用 代行施行管理料	91,281,600	42,260,000	0	0	49,021,600	令和元年11月29日	ミシマサイコ: H30年に契約先の品種変更により播種1年目で収穫する品種から2年目で収穫する品種に切り替わった。契約先の試験栽培の結果から反収向上により出荷量が増える見込みであったが、生産者が毎年出荷するためには圃場を2分割して播種をずらす必要があるため、面積が縮小し、出荷量が減少した。また、栽培期間が2年と長くなったことにより炭そ病等の発病リスクが高まり、栽培が難しくなったことで新規生産者数が伸び悩んでいる。今後は既存生産者の増反推進と新規生産者の掘り起こし、土壌改良や炭そ病等病害虫対策の徹底により出荷数量の増加を図る。 山椒: 計画を下回っている原因には、一部株枯れや冠水被害にあった圃地の生育不良、老木化がある。1.5ha分の増反希望者を確保しているため、早期の定植及び栽培管理の徹底を図る。 シソ: 令和2年度は長雨による浸水被害の影響により、出荷量50kgと目標を大きく下回った。令和4年度については50aの増反が確定しているため、栽培管理の徹底により安定した販売数量の確保を図る。 八朔: 目標面積を下回る状況ではあるが、成木化は順調に進んでいる。また、令和4年度以降の新規増反者が確保できているため、面積増反により販売数量・販売金額の増加を図る。	計画より販売額73.59%増で産地拡大は進んだが、目標達成には至らなかった。 ミシマサイコについては、新規生産者の確保、土壌改良や病害対策の徹底により出荷数量の増加を図る。 山椒は、土地の排水不良による根腐れが疑われるため、明渠の設置など、排水対策の指導を行うとともに、増反希望者を募る。 シソは、増反者の安定生産を図るため、技術指導を徹底する。 八朔は、新規生産者の確保と、成木化した圃地の安定生産を図るために技術指導を徹底する。		
大洲市	愛媛たいき農業協同組合	野菜(ハクサイ・トマト・きゅうり他)	被災前に比べて農畜産物生産額を1%以上増加(平成29年度野菜販売788,904千円を、令和2年度796,800千円以上の101%に増加させる。)	788,904千円	736,879千円 6.5%減	765,251千円 3.0%減	843,261千円 6.8%増	796,800千円 1.0%増	688.4%	販売金額が54,357千円増加し、目標を達成した。 愛媛たいき農協における共販販売実績により検証 ①現状値 H29愛媛たいき農協共販品目(※)販売金額 788,904千円 ②目標値 R2愛媛たいき農協共販品目販売金額 796,800千円 ③実績値 R2愛媛たいき農協共販品目販売金額 843,261千円 ④達成率 (③-①) ÷ (②-①) × 100 (%) 688.4% ※共販品目 ハクサイ・ピーマン・トマト・ミニトマト・きゅうり・メロン・いちご・なす・すいか・かぼちゃ	集出荷貯蔵施設の補修 冷蔵機器 選果設備一式(スクリューコンベヤー、選果情報処理装置等)	62,352,180	28,866,000	0	0	33,486,180	H31年3月29日	施設復旧により生産者の生産意欲が向上した。また、予冷施設を十分に活用した出荷体制の構築により品質も向上し、市場からの評価を高めている。 R2年度は、作付面積が被災前に戻りつつあることからトマト、キュウリ、イチゴについては出荷数量、販売高とも前年を上回った。営農アドバイザー等による生産指導の拡充による生産技術の高位平準化が図られているが、栽培面積及び販売金額の増加に向けて引き続き生産指導の拡充を図り、作付け規模の拡大を図る。 被災により圃場移転を余儀なくされた農家や、高齢農家の作付け縮小等により栽培面積が減少した品目もあるため、後継・新規就農者の生産・設備投資の意欲に影響しないよう、助成・支援事業の情報収集に努める。	販売金額の目標達成の要因は、白菜といちごの面積拡大と、きゅうりの反収向上である。 さらなる産地強化を図るためには、反収の向上が重要であるため、水害による土壌の排水性不良や化学性の悪化により反収が伸び悩んでいる地域に対して、土壌改良の指導を重点的に行う。また、産地の野菜主力品目であるきゅうりに関しては、面積の減少が進んでいるため、新規生産者の確保に努め、ハウス栽培の推進を図る。		

都道府県平均達成率	53.4%	総合所見	本事業の活用により、災害にあった施設の復旧により産地強化を図ることができたが、3取組のうち2取組は目標未達成となり、結果、平均達成率は未達成となった。 目標に達しなかった大洲市の米麦販売金額については、米の単価向上を図るため、夏季の高温障害を受けにくく食味が良い品種への転換推進とウンカ防除の徹底を図り、近年中の目標達成を目指す。 薬用作物については、山椒栽培地における土壌排水性改善の指導、薬用シソ新規生産者と成木化した八朔圃地を中心に栽培技術指導を徹底するとともに、既存生産者の経営面積拡大推進と新規生産者の確保を図る。今後も関係機関が連携して、成果目標達成に向け、問題の見直し・改善を行う。
-----------	-------	------	--